

第 9 期 柏市高齢者いきいきプラン 2 1 の実績について (令和 6 年度 取り組み編)

第9期柏市高齢者いきいきプラン21 評価結果(令和6年度)

【評価の目安】

◎:計画を上回って進んでいる・・・100%超 △:計画よりやや取り組みが遅れている・・・60～80%
 ○:ほぼ計画どおり進んでいる・・・80～100% ×:計画の取り組みが遅れ、見直しが必要である・・・60%未満

評価の集計結果

施策目標	重点施策 ※()内は事業数	令和6年度			
		◎	○	△	×
「健康」で「いきがい」をもって暮らし続けることができるよう、高齢者が主体的に介護予防に取り組み、健康寿命を延伸する	フレイル予防・健康づくりの推進 (9)	3	6	0	0
	小計 (9事業)	3	6	0	0
「支える側・支えられる側」という関係を超えて、地域住民が「つながり」あい、見守りあう地域づくりを進める	多様な主体の連携による地域づくりの推進 (5)	2	2	1	0
	認知症施策の推進 (7)	4	3	0	0
	小計 (12事業)	6	5	1	0
社会環境が目まぐるしく変化していく中でも、すべての高齢者が「安心して暮らせる」環境を整える	相談支援体制の充実 (5)	2	3	0	0
	安心して暮らせるまちづくりの推進 (11)	3	8	0	0
	権利擁護の充実 (7)	5	2	0	0
	小計 (23事業)	10	13	0	0
「医療・介護」が必要な高齢者や家族が、望む暮らしを選択・継続できる環境を整える	介護サービス等の基盤整備 (8)	1	7	0	0
	介護保険制度の適正な運営 (10)	2	8	0	0
	在宅医療・介護連携の推進 (8)	2	6	0	0
	小計 (26事業)	5	21	0	0
合計 70事業 (100%)		24 (34.3%)	45 (64.3%)	1 (1.4%)	0 (0%)

基本方針1 健康・いきがい

目標 「健康」で「いきがい」をもって暮らし続けることができるよう、高齢者が主体的に介護予防に取り組み、健康寿命を延伸する。

施 策	1-1 フレイル予防・健康づくりの推進 生活習慣病の重症化予防やフレイル状態の進行防止の取り組みを進めるため、地域特性に応じた効果的、効率的なフレイル予防を推進する。
目 的	✓ 健康寿命の延伸 ✓ 現役世代からの健康意識の向上 ✓ 高齢者の社会参加の促進
主な実績 (R6年度)	✓ フレイル予防に対する意識醸成と活動促進を図ることを目的に、イベントの開催やフレイルチェック講座の実施のほか、各種の普及・啓発に努めた。 ✓ フレイルチェック講座の参加者数が、指標を上回った。↗【指標:1,200人 → R6実績:1,769人】 ✓ 特定健診の受診率向上に向け、IT技術を活用した受診勧奨を行い、受診率の低い若年層や国保新規加入者への通知のほか、不定期受診者へは直近の検査結果を掲載し、個別性を持たせた通知を送付した。 ✓ 後期高齢者におけるフレイルハイリスク者へのアプローチについて、実施圏域を拡大し、各地域の健康講座等の活動紹介を行うなどの啓発を行った。 ✓ 健康アプリの始動に向けた広報活動、個別通知、プレ配信、アプリインストール支援会を実施し、アプリへ円滑に移行するよう取り組んだ。
R7年度 方向性	✓ フレイルチェック等については、フレイル予防サポーターの育成・支援を通じて実施体制をさらに充実させ、安定的な事業運営を図っていく。 ✓ 生活習慣病の予防及び重症化予防として、特定健康診査への個別通知について、SNSを活用した受診勧奨や集団検診予約の電子申請の取り組みを継続するとともに、人間ドック・脳ドックの助成を増額することで、受診率の底上げを図る。 ✓ 後期高齢者におけるフレイルハイリスク者へのアプローチについて、地域包括支援センターの協力のもと、実施対象圏域を拡大し、地域の状況に応じたアプローチを図る。 ✓ アプリの利用を促進するため、広報活動はもちろんのこと、引き続き支援会を実施し、市民が自然と健康になれる環境を整備する。

基本方針2 つながり・支えあい

目標 「支える側・支えられる側」という関係を超えて、地域住民が「つながり」あい、見守りあう地域づくりを進める。

施 策	2-1 多様な主体の連携による地域づくりの推進 就労や社会参加、地域での自主活動やボランティア活動などが活発に行われ、インフォーマルなサービスなどとも連携した助けあいや支えあいの取り組みにより、地域住民がつながりあえる支援を行う。	2-2 認知症政策の推進 認知症に対する理解を促進するとともに、地域で本人や家族が自分らしく暮らせるよう、見守りや相談窓口の周知、早期発見・早期対応による重度化防止の取り組みを推進する。
目 的	✓ 多様な生活支援ニーズへの対応、多様な主体の連携 ✓ 担い手の確保	✓ 認知症理解の促進 ✓ 認知症のかたと見守り体制の充実
主な実績 (R6年度)	✓ 支えあい会議は、Web形式や少人数制のコア会議にするなど工夫を凝らし、参加者数が指標を上回った。【指標:840人 → R6実績:1,142人】 ✓ たすけあいサービス団体において、新規団体の活動開始に向けた支援を行った。 ✓ ①個人ボランティアの登録、②夏季ボランティアの体験者ともに指標を上回った。【①指標:100人 → R6実績:115人／②指標:600人 → R6実績:913人】	✓ 認知症サポーター養成講座の受講者数(累計)が指標を上回った。【指標:40,000人 → R6実績:41,595人】 ✓ 認知症対応ガイドブックについて、表紙やケアパス等を見直し、市民に手に取ってもらえるよう改訂した。 ✓ かしわオレンジSOSネットワークについて、鉄道各社の市内各駅との協定を結び、協力事業所数が増加した。【R5実績:159事業所 → R6実績:169事業所】
R7年度 方向性	✓ 支えあい会議は、生活支援体制整備事業の新しい取り組みに伴い、現在の会議体の在り方を見直していく。 ✓ たすけあいサービス団体は、個別ニーズと資源のマッチングを通して、必要な資源や支援者の発掘・支援を行う。 ✓ 個人ボランティアについては、窓口対応、講座だけではなく、個人登録が出来るチャンネルを拡大していく。	✓ 認知症サポーター養成講座は、市内小中高へのアプローチの継続及びモデル地域を拡大していく。 ✓ 認知症ガイドブックについては、市内各所及び医療機関での設置のほか、相談時での活用を継続していく。 ✓ かしわオレンジSOSネットワーク事業は、市内ドラッグストアや郵便局へのアプローチを図る予定。

基本方針3 くらし・安心

目標 社会環境が目まぐるしく変化していく中でも、すべての高齢者が「安心」して「暮らせる」環境を整える。

施 策	3-1 相談支援体制の充実 複雑・多様化した様々な課題について、柏市重層的支援体制整備事業や従来からのネットワークを活用し、適切な支援を行う。	3-2 安心して暮らせるまちづくりの推進 犯罪や消費者トラブル、災害などから高齢者を守り、安心して地域で暮らし続けられるよう、地域住民や関係機関が連携し、必要な支援を行う。	3-3 権利擁護の充実 独居の高齢者や認知症高齢者が増加していく中でも、それぞれの高齢者の尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けるために権利擁護の充実を図る。
目 的	✓ 地域包括支援センターの適切な運営 ✓ 地域いきいきセンターの運営	✓ 防災・防犯の強化 ✓ 暮らしの支援	✓ 高齢者虐待への対応 ✓ 成年後見制度の普及啓発
主な実績 (R6年度)	✓ 地域包括支援センター職員の対応満足度について、利用者等への調査で、指標を上回った。↗ 【指標:80% → R6実績:85%】 ✓ 市内11ヶ所目として、風早北部地域いきいきセンターを新規開設した。	✓ 町会等に対する特殊詐欺防止講話の実施及び年金支給日に詐欺防止に係る啓発を実施した。 ✓ かしわコミュニティバス「ワニバース(南部ルート)」のシルバーチケット実証実験を開始した。	✓ 高齢者虐待に係る対応の終結割合が指標を上回った。↗【指標:71% → R6実績:79%】 ✓ 市民後見人候補者名簿登録者53名に対し、フォローアップ研修を3回、交流会を2回実施した。
R7年度 方向性	✓ 地域包括支援センター職員研修を通し、職員の質向上に努める。 ✓ 地域いきいきセンターについては、新規開設予定の高田・松ヶ崎地域における地域定着を目指す。	✓ 詐欺撃退録音機無料取付事業の対象年齢を65歳以上に拡大し、特殊詐欺の被害防止を図る。 ✓ 高齢者の移動需要の変化に応じるため、コミュニティ交通新設・再編について検討を行う。	✓ 高齢者虐待への対応については、地域包括支援センターをはじめ、関係機関と連携を図り、相談支援を行う。 ✓ 市民後見人の受任に繋がられるよう、研修及び交流会を実施していく。

基本方針4 医療・介護

目標 「医療・介護」が必要な高齢者や家族が、望む暮らしを選択・継続できる環境を整える。

施策	4-1 介護サービス等の基盤整備	4-2 介護保険制度の適正な運営	4-3 在宅医療・介護連携の推進
	介護度が中・重度になっても、能力に応じて自立した日常生活を送り、本人やその家族が望む暮らしを最後まで選択できるよう、必要な介護サービスが安定的に提供できる基盤整備を進める。	高齢者数が増加していく中でも、介護保険制度の持続可能性を確保するため、介護保険事業の質の向上に向けた取り組みや事業所への支援を進める。	医療と介護の多職種連携強化を引き続き図るとともに、在宅医療提供体制の整備に努め、本人やその家族が望む暮らしを最後まで選択できるよう、様々な取り組みを進める。
目的	✓ 介護サービス施設等の整備 ✓ 介護人材の確保・定着	✓ 介護保険事業の質の向上 ✓ 介護サービス事業所等への支援	✓ 医療と介護の多職種連携強化 ✓ 在宅医療提供体制の整備
主な実績 (R6年度)	✓ 施設等整備は、特養1施設が開所、看多機及び定期巡回等の事業所が1か所ずつ開所、今後の特養の整備に関して公募により1事業所を選定した。 ✓ 介護人材の確保に向けたイベントを開催し、100名以上が来場した。	✓ 給付適正化では、縦覧点検・医療費突合により過誤に繋がった割合について、指標を上回った。↗ 【指標:50% → R6実績:95.9%】 ✓ 介護関係団体支援として、ADL維持等加算の算定事業所に対する新規事業を設計した。	✓ 顔の見える関係会議への参加により、多職種と連携しやすくなったと感じた参加者の割合が8割を超えた。 ✓ 看取りを行う施設数が増加した。↗ 【R5実績:21施設 → R6実績:22施設】
R7年度 方向性	✓ 施設整備については、グループホーム及び看多機の整備運営事業者を募集する。 ✓ 介護人材の確保に向けたイベントの開催及び介護資格取得費用の助成について、取り組みを強化する。	✓ 給付適正化については、縦覧点検・医療費突合などの個別対応に加えて、全体的な傾向分析及び公表に努める。 ✓ ADL維持等加算促進事業については、事業者アンケート等を通して、事業の課題・効果検証を行う。	✓ 多職種連携については、会議や研修会において、テーマ及び開催方法について参加者の負担軽減を図りながら、充実した内容に努める。 ✓ 各施設の看取り体制に係る情報共有を図り、体制構築に向けたネットワーク会議を開催する。